医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会の IF 記載要領 2013 に準拠して作成

末梢 COMT 阻害剤

日本薬局方 エンタカポン錠

エンタカポン錠 100mg「トーワ」

ENTACAPONE TABLETS 100 mg "TOWA"

剤 形	フィルムコーティング錠
製 剤 の 規 制 区 分	処方箋医薬品 ^{注1)} 注1)注意-医師等の処方箋により使用すること
規格・含量	1 錠中 日局 エンタカポン 100mg 含有
一般名	和 名:エンタカポン(JAN) 洋 名: Entacapone (JAN)
製 造 販 売 承 認 年 月 日 薬価基準収載・発売年月日	製造販売承認年月日: 2016年 2月 15日 薬価基準収載年月日: 2016年 6月 17日 販売開始年月日: 2016年 6月 17日
開発·製造販売(輸入)· 提携·販売会社名	製造販売元:東和薬品株式会社
医薬情報担当者の連絡先	電話番号: FAX:
問い合わせ窓口	東和薬品株式会社 学術部 DI センター 10120-108-932 FAX 06-7177-7379 https://med.towayakuhin.co.jp/medical/

本 IF は 2020 年 9 月改訂の電子添文の記載に基づき作成した。

最新の電子添文情報は医薬品医療機器情報提供ホームページ

https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html にてご確認ください。

IF 利用の手引きの概要 - 日本病院薬剤師会-

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書(以下、添付文書と略す)がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補 完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビュー フォームが誕生した。

昭和63年に日本病院薬剤師会(以下、日病薬と略す)学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」 (以下、IFと略す)の位置付け並びにIF記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成10年9月に日病薬学術第3小委員会においてIF記載要領の改訂が行われた。

更に 10 年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成 20 年 9 月に日病薬医薬情報委員会において IF 記載要領 2008 が策定された。

IF 記載要領 2008 では、IF を紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF 等の電磁的データとして提供すること(e-IF)が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版の e-IF が提供されることとなった。

最新版の e-IF は、(独)医薬品医療機器総合機構の医薬品情報提供ホームページ(http://www.pmda.go.jp/)から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IF を掲載する医薬品情報提供ホームページが公的サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせて e-IF の情報を検討する組織を設置して、個々の IF が添付文書を保管する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008 年より年 4 回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF 記載要領の一部改訂を行い IF 記載要領 2013 として公表する運びとなった。

2. IFとは

IF は「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は IF の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供された IF は、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[IF の様式]

- ①規格はA4版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体(図表は除く)で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②IF 記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF 利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2 頁にまとめる。

「IF の作成]

- ①IF は原則として製剤の投与経路別(内用剤、注射剤、外用剤)に作成される。
- ②IF に記載する項目及び配列は日病薬が策定した IF 記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとの IF の主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従 事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領 2013」(以下、「IF 記載要領 2013」と略す)により作成された IF は、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体(PDF)から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

[IF の発行]

- ①「IF 記載要領 2013」は、平成 25 年 10 月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF 記載要領 2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果(臨床再評価)が公表された時点並びに適応症の拡大 等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合には IF が改訂される。

3. IFの利用にあたって

「IF 記載要領 2013」においては、PDF ファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。電子媒体の IF については、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IF の原点を踏まえ、 医療現場に不足している情報や IF 作成時に記載し難い情報等については製薬企業の MR 等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IF の利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IF が改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IF の使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることがあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IF を薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IF は日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。また製薬企業は、IF があくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

目 次

I. 概要に関する項目	1	Ⅲ. 安全性(使用上の注意等)に関する項目.	19
1. 開発の経緯	1	1. 警告内容とその理由	19
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1	2. 禁忌内容とその理由(原則禁忌を含む)	
		3. 効能・効果に関連する使用上の注意と	
Ⅱ. 名称に関する項目	2	その理由	19
1. 販売名	2	4. 用法・用量に関連する使用上の注意と	. 10
2. 一般名	2	その理由	10
3. 構造式又は示性式			
4. 分子式及び分子量		5. 慎重投与内容とその理由	
5. 化学名(命名法)		6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	
6. 慣用名、別名、略号、記号番号		7. 相互作用	
		8. 副作用	
7. CAS登録番号		9. 高齢者への投与	
Ⅲ. 有効成分に関する項目	4	10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	23
1. 物理化学的性質		11. 小児等への投与	23
2. 有効成分の各種条件下における安定性		12. 臨床検査結果に及ぼす影響	23
2. 有効成分の各種条件下におりる女足性 3. 有効成分の確認試験法		13. 過量投与	
		14. 適用上の注意	
4. 有効成分の定量法	4	15. その他の注意	
Ⅳ. 製剤に関する項目	5	16. その他	
1. 剤 形			
2. 製剤の組成		区. 非臨床試験に関する項目	25
3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意		1. 薬理試験	25
		2. 毒性試験	
4. 製剤の各種条件下における安定性			
5. 調製法及び溶解後の安定性		X. 管理的事項に関する項目	26
6. 他剤との配合変化(物理化学的変化)		1. 規制区分	26
7. 溶出性		2. 有効期間又は使用期限	26
8. 生物学的試験法		3. 貯法・保存条件	26
9. 製剤中の有効成分の確認試験法		4. 薬剤取扱い上の注意点	
10. 製剤中の有効成分の定量法		5. 承認条件等	
11. 力価	10	6. 包装	
12. 混入する可能性のある夾雑物	10	7. 容器の材質	
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に		8. 同一成分・同効薬	
- 関する情報	11	9. 国際誕生年月日	
14. その他			
		10. 製造販売承認年月日及び承認番号	
Ⅴ. 治療に関する項目	12	11. 薬価基準収載年月日	27
1. 効能・効果	12	12. 効能・効果追加、用法・用量変更追加等の	
2. 用法・用量	12	年月日及びその内容	27
3. 臨床成績	12	13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及び	
		その内容	
VI. 薬効薬理に関する項目	14	14. 再審査期間	
1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群	14	15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	27
2. 薬理作用	14	16. 各種コード	28
*** **********		17. 保険給付上の注意	
Ⅷ. 薬物動態に関する項目			
1. 血中濃度の推移・測定法		X I . 文 献	29
2. 薬物速度論的パラメータ	16	1. 引用文献	
3. 吸 収	17	2. その他の参考文献	29
4.分 布			
5. 代 謝	17	X Ⅱ.参考資料	
6. 排 泄		1. 主な外国での発売状況	
7. トランスポーターに関する情報		2. 海外における臨床支援情報	29
8. 透析等による除去率		Vm 准 *	0.0
O. 位 N 4 に S の M A 十	10	X II. 備 考	
		その他の関連資料	30

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

エンタカポン錠は末梢 COMT 阻害剤であり、本邦では 2007 年に上市されている。東和薬品株式会社が後発医薬品として、エンタカポン錠 100mg「トーワ」の開発を企画し、薬食発第 0331015 号(平成 17 年 3 月 31 日)に基づき、規格及び試験方法を設定、加速試験、生物学的同等性試験を実施し、2016 年 2 月に承認を取得、2016 年 6 月に発売した。

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

臨床的特性

有用性:エンタカポン錠 100mg「トーワ」は、レボドパ・カルビドパ又はレボドパ・ベンセラジド塩酸塩との併用によるパーキンソン病における症状の日内変動(wearing-off 現象)の改善に対して、本剤は単独では使用せず、必ずレボドパ・カルビドパ又はレボドパ・ベンセラジド塩酸塩と併用し、通常、成人にはエンタカポンとして 100mg を経口投与することにより、有用性が認められている。

安全性: 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

副作用として、不眠症、ジスキネジー、ジストニー、便秘、悪心、着色尿、貧血等が報告されている。 [Ⅷ. 8. (3) その他の副作用の項を参照]

重大な副作用として、悪性症候群、横紋筋融解症、突発的睡眠、傾眠、幻覚、幻視、幻聴、錯乱、肝機能障害があらわれることがある。〔WII. 8. (2) 重大な副作用と初期症状の項を参照〕

製剤的特性

- ・錠剤両面に製品名と含量を鮮明な文字で印刷。
- ・服用時の注意点を PTP に記載。
- ・変更調剤を考慮した、先発・代表薬剤とほぼ同じサイズの錠剤。
- ・個装箱に、変動情報(使用期限,製造番号)を含んだ GS1 コードなど必要な情報を記載し、 ハサミを使わずに切り取って在庫管理に活用できる"切り取りラベル"を採用。
- ・バラ包装にはキャップ等へ貼付が可能な副片ラベルを採用。

Ⅱ. 名称に関する項目

- 1. 販売名
 - (1) **和 名** エンタカポン錠 100mg「トーワ」
 - (2) 洋 名 ENTACAPONE TABLETS 100mg "TOWA"
 - (3) 名称の由来

一般名+剤形+規格(含量)+「トーワ」

[「医療用後発医薬品の承認申請にあたっての販売名の命名に関する留意事項について」(平成 17年9月22日 薬食審査発第0922001号)に基づく]

- 2. 一般名
 - (1) 和 名(命名法)エンタカポン(JAN)
 - (2) 洋 名(命名法) Entacapone (JAN)
 - (3) ステム 不明
- 3. 構造式又は示性式

4. 分子式及び分子量

分子式: $C_{14}H_{15}N_3O_5$ 分子量: 305.29

5. 化学名(命名法)

(2E)-2-Cyano-3-(3,4-dihydroxy-5-nitrophenyl)-N,N-diethylprop-2-enamide (IUPAC)

6. **慣用名、別名、略号、記号番号** 該当資料なし

7. CAS登録番号

130929-57-6

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

黄色~帯緑黄色の結晶性の粉末である。結晶多形が認められる。

(2) 溶 解 性

溶媒	1g を溶かすのに	溶解性	
メタノール	30mL以上	100mL 未満	やや溶けにくい
エタノール (99.5)	100mL以上	1000mL 未満	溶けにくい
水	10000mL以上		ほとんど溶けない

(3) 吸湿性

該当資料なし

(4) 融点(分解点)・沸点・凝固点

該当資料なし

(5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

該当資料なし

2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

3. 有効成分の確認試験法

日局「エンタカポン」の確認試験による

4. 有効成分の定量法

日局「エンタカポン」の定量法による

Ⅳ. 製剤に関する項目

1. 剤 形

(1) 剤形の区別、外観及び性状

剤形の	つ区別	フィルムコーティング錠			
性	状	うすい黄赤色~くすんだ黄赤色の 楕円形のフィルムコーティング錠			
本体 表示	表裏	エンタカポン 100 トーワ			
		表 裏 側面			
外	形	(マタカボン) (マカボン) (100 トーフ) (100 トーT)			
錠径((mm)	13.2/6.2(長径/短径)			
厚さ((mm)	4.7			
質量	(mg)	354			

(2) 製剤の物性

硬度	181N(18.5kg 重)
----	----------------

(3) 識別コード

- (1) 剤形の区別、外観及び性状の項を参照
- (4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定な pH 域等 該当しない

2. 製剤の組成

(1) 有効成分(活性成分)の含量

1錠中 日局 エンタカポン 100mg を含有する。

(2) 添加物

110	
使 用 目 的	添加物
賦形剤	乳糖水和物、結晶セルロース、沈降炭酸 Ca
崩壊剤	カルメロース Ca
可溶剤	ラウリル硫酸 Na
滑沢剤	軽質無水ケイ酸、ステアリン酸 Mg
コーティング剤	ヒプロメロース、マクロゴール 6000、タルク、酸化チタン
着色剤	黄色三二酸化鉄、三二酸化鉄

(3) その他

該当資料なし

3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当しない

4. 製剤の各種条件下における安定性

(1) 加速試験 1)

包装形態: PTP 包装し貼り合わせアルミ箔包装した製品

試験条件: 40℃、75%RH、3 ロット(n=3)

試験項目	開始時	6 箇月
性状	うすい黄赤色の 楕円形のフィルム コーティング錠	同左
確認試験	適合	同左
製剤均一性	適合	同左
溶出率(%)	81.4~87.5	80.1~87.7
含量(%)	100.0~101.6	$99.5 \sim 101.2$

包装形態:ポリエチレン瓶に入れた製品(乾燥剤入り)

試験条件:40℃、75%RH、3 ロット(n=3)

試験項目	開始時	6 箇月
性状	うすい黄赤色の 楕円形のフィルム コーティング錠	同左
確認試験	適合	同左
製剤均一性	適合	同左
溶出率(%)	81.4~87.5	80.9~86.9
含量(%)	100.0~101.6	99.7~101.9

(2) 長期保存試験 2)

包装形態:PTP 包装し貼り合わせアルミ箔包装した製品

試験条件:25℃、60%RH、3 ロット(n=1)

試験項目	開始時	5年6箇月
性状	うすい黄赤色〜くすんだ 黄赤色の楕円形の フィルムコーティング錠	同左
確認試験	適合	同左
製剤均一性	適合	同左
溶出率(%)	80.9~88.3	$86.7 \sim 95.1$
含量(%)	97.7~100.6	98.8~100.9

包装形態:ポリエチレン瓶に入れた製品(乾燥剤入り)

試験条件:25℃、60%RH、1 ロット(n=1)

試験項目	開始時	5年6箇月
性状	うすい黄赤色〜くすんだ 黄赤色の楕円形の フィルムコーティング錠	同左
確認試験	適合	同左
製剤均一性	適合	同左
溶出率(%)	81.5~85.8	87.0~93.3
含量(%)	98.6	100.7

最終包装製品を用いた長期保存試験 $(25^{\circ}$ C、相対湿度 60%、5 年 6 箇月)の結果、エンタカポン錠 100mg「トーワ」は通常の市場流通下において 5 年間安定であることが確認された。

(3) 無包装状態における安定性 3)

派已表代心で6577 0 久之上					
試験項目	開始時	温度 (40℃、3 箇月)	湿度 (25℃、75%RH、 3 箇月)	光 (60万 lx・hr)	
外観	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	
含量	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	
硬度	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	
溶出性	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	

注)「(社)日本病院薬剤師会:錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)、平成 11 年 8 月 20 日」に準じて試験を実施した。

5. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

6. 他剤との配合変化(物理化学的変化)

服薬補助ゼリーとの配合変化

■方法

(1)試験概要

エンタカポン錠 100 mg 「トーワ」(1 錠)と服薬補助ゼリー(大さじ 1 (およそ 15 mL))を配合し、配合直後からの変化の有無を確認した。

(2)保存条件

保存条件:成り行き温湿度、室内散光下

保存容器:ガラス栓をした無色透明ガラス製容器

(3)試験項目・方法

1) 外観:目視にて確認(色調、形状、懸濁、沈殿の有無等) (n=1)

2) におい: においを確認 (n=1)

3) 定量:液体クロマトグラフィー (n=3)

■結果

試験製剤	服薬補助ゼリー		測定時点		
武映製剤	(メーカー名)	測定項目	配合前	配合直後	3 時間後
エンタカポン 錠 100mg	らくらく服薬ゼリー	外観	試験製剤: うすい黄赤色の楕円形 のフィルムコーティン グ錠	微黄白色のゼリーに錠 剤が包まれていた	微黄白色のゼリーに膨 潤し、フィルムコーティングがはがれ、一部 崩壊した錠剤が包まれ ていた
「トーワ」	(龍角散)	におい		レモン様のにおい	同左
		含量 (%)	試験製剤:99.3	98.5	98.6
		残存率 (%)		100.0	100.1

7. 溶出性

(1) 規格及び試験方法 4)

エンタカポン錠 100mg「トーワ」は、日本薬局方医薬品各条に定められたエンタカポン錠の溶 出規格に適合していることが確認されている。

方 法:日局溶出試験法(パドル法)

試験液:0.05 mol/L リン酸二水素カリウム試液に水酸化ナトリウム試液を加えて pH 5.5 に調

整した液 900mL

回転数:50rpm

測定法:紫外可視吸光度測定法

規格:30分間の溶出率が80%以上のときは適合とする。

〔出典:日本薬局方医薬品各条〕

生物学的同等性試験 5)

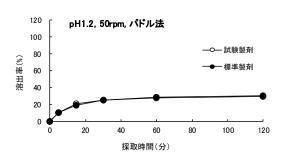
「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」(平成 24 年 2 月 29 日 薬食審査発 0229 第 10 号)(以下、ガイドライン)に従い溶出試験を行った。

<測定条件>

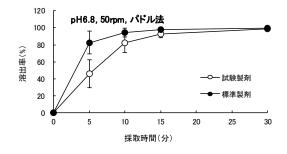
試 験 液 : pH1.2、pH5.0、pH6.8、水

回 転 数 : 50rpm、100rpm

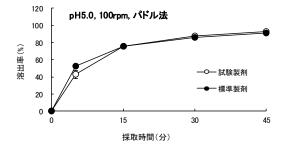
試験製剤 : エンタカポン錠100 mg「トーワ」



時間(分)	0	5	15	30	60	120
試験製剤	0	11.0	21.4	25.5	28.1	29.7
標準偏差	0	1.2	0.4	0.3	0.4	0.4
標準製剤	0	10.8	19.2	25.1	28.8	31.0
標準偏差	0	1.8	1.4	0.8	0.5	0.4

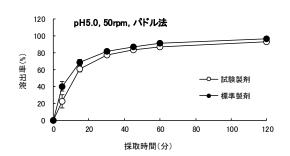


時間(分)	0	5	10	15	30
試験製剤	0	46.0	82.1	92.8	98.7
標準偏差	0	16.7	10.7	4.6	1.6
標準製剤	0	82.6	94.0	97.5	99.4
標準偏差	0	13.1	5.2	2.3	1.3

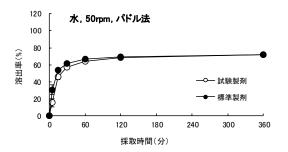


時間(分)	0	5	15	30	45
試験製剤	0	42.9	76.1	87.5	92.6
標準偏差	0	4.5	1.1	8.0	0.8
標準製剤	0	52.6	75.7	86.1	90.7
標準偏差	0	2.6	1.1	8.0	1.0

検 体 数 : n=12 試 験 法 : パドル法 標準製剤 : 錠剤、100mg



時間(分)	0	5	15	30	45	60	120
試験製剤	0	22.8	61.5	77.4	83.9	87.5	93.3
標準偏差	0	7.7	3.8	1.4	1.0	1.1	1.5
標準製剤	0	40.5	68.6	81.7	87.5	91.5	96.5
標準偏差	0	5.7	3.8	3.1	2.6	2.9	2.4



時間(分)	0	5	15	30	60	120	360
試験製剤	0	15.7	45.9	57.5	64.1	68.1	71.6
標準偏差	0	4.7	3.0	1.6	1.0	0.8	0.7
標準製剤	0	30.8	53.4	61.7	66.3	69.1	71.5
標準偏差	0	5.5	1.8	0.8	0.7	0.6	0.6

試験製剤及び標準製剤の平均溶出率の比較(パドル法)

	試験条件		平均溶片	出率(%)	平均		
回転数 (rpm)	試験液	採取時間 (分)	試験 製剤	標準 製剤	溶出率 の差(%)	類似性の判定基準	判定
	pH1.2	15	21.4	19.2	2.2	標準製剤の平均溶出	適
	p111.2	120	29.7	31.0	-1.3	率の±9%以内	旭
	pH5.0	15	61.5	68.6	-7.1	標準製剤の平均溶出	適
	p115.0	45	83.9	87.5	-3.6	率の±15%以内	呾
50	рН6.8	15	92.8	97.5		15 分以内に平均 85 % 以上溶出	適
	水	15	45.9	53.4	-7.5	標準製剤の平均溶出	適
	八	360	71.6	71.5	0.1	率の±12%以内	迪
100 pH5.0	5	42.9	52.6	-9.7	標準製剤の平均溶出	適	
	30	87.5	86.1	1.4	率の±15%以内	旭	

(n=12)

上記の結果より、試験条件それぞれについて、ガイドラインの溶出挙動の類似性の判定基準に 適合した。

従って、エンタカポン錠 100 mg「トーワ」と標準製剤の溶出挙動は類似していると判断した。

8. 生物学的試験法

該当しない

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

日局「エンタカポン錠」の確認試験による

10. 製剤中の有効成分の定量法

日局「エンタカポン錠」の定量法による

11. 力価

該当しない

12. 混入する可能性のある夾雑物

類縁物質 A:(2Z)-2-シアノ-3-(3,4-ジヒドロキシ-5-ニトロフェニル)-N,N-ジエチルプロパ-2-エンアミド

- 13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報 該当しない
- **14. その他** 該当しない

V. 治療に関する項目

1. 効能·効果

レボドパ・カルビドパ又はレボドパ・ベンセラジド塩酸塩との併用によるパーキンソン病における症状の日内変動(wearing-off 現象)の改善

【効能・効果に関連する使用上の注意】

- 1) 本剤は症状の日内変動(wearing-off 現象)が認められるパーキンソン病患者に対して使用すること。
- 2) 本剤はレボドパ・カルビドパ又はレボドパ・ベンセラジド塩酸塩投与による治療(少なくともレボドパとして1日300mg)において、十分な効果の得られない患者に対して使用すること。

2. 用法·用量

本剤は単独では使用せず、必ずレボドパ・カルビドパ又はレボドパ・ベンセラジド塩酸塩と併用する。

通常、成人にはエンタカポンとして1回100mgを経口投与する。

なお、症状によりエンタカポンとして1回200mgを投与することができる。

ただし、1日8回を超えないこと。

【用法・用量に関連する使用上の注意】

- 1) 本剤はレボドパ・カルビドパ又はレボドパ・ベンセラジド塩酸塩との併用により効果が認められる薬剤であり、単剤では効果が認められない。
- 2) 本剤はレボドパの生物学的利用率を高めるため、レボドパによるドパミン作動性の副作用 (ジスキネジー等) があらわれる場合がある。このため、本剤の投与開始時又は増量時に は患者の状態を十分観察し、ドパミン作動性の副作用がみられた場合は、本剤あるいはレボドパ・カルビドパ又はレボドパ・ベンセラジド塩酸塩を調節すること。
- 3) 本剤を1回200 mgへ増量した場合、ジスキネジー等が発現することがあるので、増量は慎重に検討すること。また、増量した際は観察を十分に行い、これらの症状が発現した場合には症状の程度に応じて本剤の1回投与量を減量する等適切な処置を行うこと。
- 4) 本剤の増量は慎重に行い、1回200 mg、1日1,600 mgを超えないこと。
- 5) 肝障害のある患者では、本剤の血中濃度が上昇したとの報告があるので、1回200 mgへの増量は必要最小限にとどめること。やむを得ず1回200 mgに増量する場合には、観察を十分に行いながら特に慎重に投与すること。(「慎重投与」の項参照)
- 6) 体重 40 kg未満の低体重の患者では、1回 200 mgを投与した場合、ジスキネジーの発現が 増加することがあるので、1回 200 mgへの増量は慎重に検討すること。

3. 臨床成績

(1) 臨床データパッケージ

該当資料なし

(2) 臨床効果

(3) 臨床薬理試験

該当資料なし

(4) 探索的試験

該当資料なし

(5) 検証的試験

1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

2) 比較試験

該当資料なし

3) 安全性試験

該当資料なし

4) 患者·病態別試験

該当資料なし

(6) 治療的使用

1) 使用成績調査・特定使用成績調査(特別調査)・製造販売後臨床試験(市販後臨床試験) 該当資料なし

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群

抗パーキンソン病薬 ブロモクリプチン、アマンタジン、ドパミン、レボドパ(L-DOPA)

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序 該当資料なし

(2) 薬効を裏付ける試験成績 該当資料なし

(3) 作用発現時間・持続時間 該当資料なし

Ⅷ. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

(1) 治療上有効な血中濃度 該当資料なし

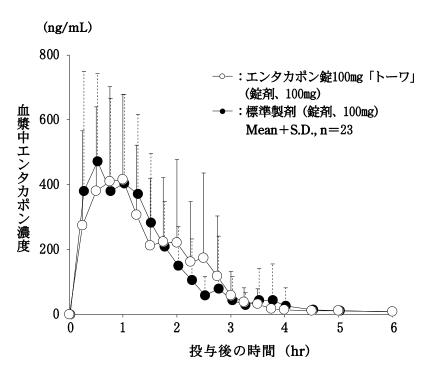
(2) 最高血中濃度到達時間

(3) 臨床試験で確認された血中濃度の項を参照

(3) 臨床試験で確認された血中濃度

生物学的同等性試験 6)

エンタカポン錠 100 mg「トーワ」と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ1錠(エ ンタカポンとして 100 mg) 健康成人男子 (n=23) に絶食単回経口投与して血漿中未変化体濃 度を測定し、得られた薬物動態パラメータ (AUC、Cmax) について 90%信頼区間法にて統 計解析を行った結果、 $\log(0.80) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認され た。



薬物動態パラメータ

	X 13 23 25 3 5					
	判定	パラメータ	参考八	パラメータ		
	AUC6 (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T _{1/2} (hr)		
エンタカポン錠 100mg「トーワ」 (錠剤、100mg)	779±178	764.380 ± 211.844	1.130±0.703	2.849 ± 2.547 *		
標準製剤 (錠剤、100mg)	787±168	740.895 ± 283.640	1.130 ± 0.885	2.225±1.437 **		

 $(Mean \pm S.D., n = 23)$

*: n=16

**:n=18

両製剤の判定パラメータの対数変換値の平均値の差及び90%信頼区間

パラメータ	AUC_{6}	Cmax
平均値の差	$\log(0.9846)$	$\log(1.0600)$
平均値の差の 90%信頼区間	$\log(0.9425) \sim \log(1.0286)$	$\log(0.9198) \sim \log(1.2216)$

血漿中濃度並びに AUC、Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

該当資料なし

(6) 母集団(ポピュレーション)解析により判明した薬物体内動態変動要因 該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1) 解析方法

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) バイオアベイラビリティ

該当資料なし

(4) 消失速度定数 6)

kel: 0.399±0.238 hr⁻¹(健康成人男子、絶食単回経口投与)

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積

該当資料なし

(7) 血漿蛋白結合率

3. 吸 収

該当資料なし

4. 分 布

(1) 血液一脳関門通過性 該当資料なし

(2) 血液一胎盤関門通過性

該当資料なし

(3) 乳汁への移行性

Ⅷ. 10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与の項 2)を参照

(4) 髄液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代 謝

(1) 代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

(2) 代謝に関与する酵素(CYP450等)の分子種

本剤は薬物代謝酵素 CYP2C9 を阻害することが示唆されている。

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排 泄

(1) 排泄部位及び経路

該当資料なし

(2) 排泄率

(3) 排泄速度

該当資料なし

7. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

8. 透析等による除去率

Ⅲ. 安全性(使用上の注意等)に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当しない

2. 禁忌内容とその理由(原則禁忌を含む)

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

- 1) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- 2) 悪性症候群、横紋筋融解症又はこれらの既往歴のある患者(「副作用」の項参照)

3. 効能・効果に関連する使用上の注意とその理由

【効能・効果に関連する使用上の注意】

- 1) 本剤は症状の日内変動(wearing-off 現象)が認められるパーキンソン病患者に対して使用すること。
- 2) 本剤はレボドパ・カルビドパ又はレボドパ・ベンセラジド塩酸塩投与による治療(少なくともレボドパとして1日300 mg)において、十分な効果の得られない患者に対して使用すること。

4. 用法・用量に関連する使用上の注意とその理由

【用法・用量に関連する使用上の注意】

- 1) 本剤はレボドパ・カルビドパ又はレボドパ・ベンセラジド塩酸塩との併用により効果が 認められる薬剤であり、単剤では効果が認められない。
- 2) 本剤はレボドパの生物学的利用率を高めるため、レボドパによるドパミン作動性の副作用 (ジスキネジー等) があらわれる場合がある。このため、本剤の投与開始時又は増量時に は患者の状態を十分観察し、ドパミン作動性の副作用がみられた場合は、本剤あるいはレボドパ・カルビドパ又はレボドパ・ベンセラジド塩酸塩を調節すること。
- 3) 本剤を1回200 mgへ増量した場合、ジスキネジー等が発現することがあるので、増量は慎重に検討すること。また、増量した際は観察を十分に行い、これらの症状が発現した場合には症状の程度に応じて本剤の1回投与量を減量する等適切な処置を行うこと。
- 4) 本剤の増量は慎重に行い、1回200 mg、1日1,600 mgを超えないこと。
- 5) 肝障害のある患者では、本剤の血中濃度が上昇したとの報告があるので、1回200 mgへの増量は必要最小限にとどめること。やむを得ず1回200 mgに増量する場合には、観察を十分に行いながら特に慎重に投与すること。(「慎重投与」の項参照)
- 6) 体重 40 kg未満の低体重の患者では、1回 200 mgを投与した場合、ジスキネジーの発現が 増加することがあるので、1回 200 mgへの増量は慎重に検討すること。

5. 慎重投与内容とその理由

慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- 1) 肝障害又はその既往歴のある患者[肝障害のある患者でエンタカポンの血中濃度が上昇したとの報告がある。(「用法・用量に関連する使用上の注意」の項参照)]
- 2) 褐色細胞腫の患者 [高血圧クリーゼのリスクが増大するおそれがある。]

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

重要な基本的注意

- 1) 本剤はレボドパの生物学的利用率を高めるため、レボドパによるドパミン作動性の副作用 (ジスキネジー等)があらわれる場合がある。このため、抗パーキンソン剤を併用する場合には、これらの投与量を調節するなど、患者の状態を注意深く観察しながら投与すること。
- 2) 本剤の投与を中止する場合には、パーキンソン病患者でみられる悪性症候群や横紋筋融解症が発現するおそれがあるので、患者の状態を十分観察しながら投与量を漸減し、必要に応じて併用しているレボドパ・カルビドパ又はレボドパ・ベンセラジド塩酸塩を増量するなど注意深く行うこと。
- 3) 前兆のない突発的睡眠、傾眠、起立性低血圧があらわれることがあるので、本剤投与中の 患者には自動車の運転、高所での作業等、危険を伴う作業には従事させないように注意す ること。
- 4) 本剤は常にレボドパ・カルビドパ又はレボドパ・ベンセラジド塩酸塩と併せて経口投与 されるため、使用前に必ずレボドパ・カルビドパあるいはレボドパ・ベンセラジド塩酸塩 の添付文書に留意すること。
- 5) 本剤とレボドパの併用療法においても、レボドパ又はドパミン受容体作動薬を投与された 患者と同様に、病的賭博(個人的生活の崩壊等の社会的に不利な結果を招くにもかかわら ず、持続的にギャンブルを繰り返す状態)、病的性欲亢進、強迫性購買、暴食等の衝動制 御障害が報告されているので、このような症状が発現した場合には、減量又は投与を中止 するなど適切な処置を行うこと。また、患者及び家族等にこのような衝動制御障害の症状 について説明すること。

7. 相互作用

本剤はカテコール-0-メチルトランスフェラーゼ (COMT) 阻害剤であり、COMT によって代謝される薬剤の血中薬物濃度を増加させる可能性があるので、このような薬剤と併用する場合には注意して投与すること。また、本剤は薬物代謝酵素 CYP2C9 を阻害することが示唆されていることから、本酵素により代謝される薬剤と併用する場合には注意して投与すること。

(1) 併用禁忌とその理由

該当しない

(2) 併用注意とその理由

併用注意(併用に注意すること)	
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
COMT により代謝される薬剤	心拍数增加、不整脈、血圧変動	カテコール基を有するこれら
アドレナリン (別名エピネフ	があらわれるおそれがある。	の薬剤は COMT により代謝され
リン)	吸入を含めて投与経路にかか	るが、本剤はこれらの薬剤の代
ノルアドレナリン (別名ノル	わらず注意すること。	謝を阻害し、作用を増強させる
エピネフリン)		可能性がある。
イソプレナリン		
ドパミン		
等		
選択的 MAO-B 阻害剤	血圧上昇等を起こすおそれが	セレギリンは用量の増加とと
セレギリン	ある。本剤とセレギリンとの相	もに MAO-B の選択的阻害効果
	互作用は認められていないが、	が低下し、非選択的 MAO 阻害に
	本剤とセレギリンを併用する	よる危険性があるため、本剤と
	場合は、セレギリンの1日量は	の併用により、生理的なカテコ
	10 mgを超えないこと。	ールアミンの代謝が阻害され
		る可能性がある。
ワルファリン	本剤は R-ワルファリン(光学	機序は不明である。
	異性体)の AUC を 18%増加さ	
	せ、プロトロンビン比 (INR 値)	
	を 13%増加させたとの報告が	
	ある。	
	併用する場合には INR 等の血	
	液凝固能の変動に十分注意す	
	ること。	
鉄剤	鉄剤の効果が減弱する。鉄剤と	本剤は消化管内で鉄とキレー
	併用する場合は、少なくとも2	トを形成することがある。
	~3時間以上あけて服用する	
	こと。	
イストラデフィリン	イストラデフィリンとの併用	機序は不明である。
	によりジスキネジーの発現頻	
	度の上昇が認められた。	

21

8. 副作用

(1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2) 重大な副作用と初期症状

重大な副作用(頻度不明)

- (1) **悪性症候群**:本剤の急激な減量又は投与中止により、高熱、意識障害(昏睡)、高度の筋硬直、不随意運動、ショック状態、激越、頻脈、不安定血圧等があらわれ、CK(CPK)上昇を伴う横紋筋融解症又は急性腎不全に至るおそれがある。このような場合には本剤を再投与後、漸減し、体冷却、水分補給等適切な処置を行うこと。
- (2) 横紋筋融解症:横紋筋融解症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、筋肉痛、脱力感、CK(CPK)上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇等があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。また、横紋筋融解症による急性腎不全の発症に注意すること。
- (3) 突発的睡眠、傾眠:前兆のない突発的睡眠、傾眠があらわれることがあるので、このよう な場合にはレボドパ製剤の減量、休薬又は投与中止等の適切な処置を行うこと。
- (4) 幻覚、幻視、幻聴、錯乱:幻覚、幻視、幻聴、錯乱があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合にはレボドパ製剤の減量又は休薬等の適切な処置を行うこと。
- (5) 肝機能障害:胆汁うっ滞性肝炎等の肝機能障害があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には本剤の減量又は休薬等の適切な処置を行うこと。

(3) その他の副作用

その他の副作用					
	頻度不明				
中传呼中	紅斑性又は斑状丘疹状の皮疹、蕁麻疹、紫斑、皮膚・毛髪・髭・爪の変色、				
皮膚障害	多汗症				
精神障害	激越、不眠症、悪夢、妄想、不安、病的性欲亢進				
	失神、回転性めまい、運動低下、ジスキネジー、ジストニー、頭痛、浮動				
神経系障害	性めまい、体位性めまい、パーキンソニズム悪化(アップダウン現象等)、				
	味覚異常、運動過多、振戦				
 胃腸障害	鼓腸、大腸炎、便秘、悪心、上腹部痛、下痢注⑵、胃不快感、食欲不振、嘔				
月肠降音	吐、レッチング、消化不良、胃炎、腹痛				
肝胆道系障害	AST (GOT) 増加、ALT (GPT) 増加、γ-GTP 増加				
腎及び尿路障害	着色尿 ^{注 3)} 、尿潜血陽性、頻尿、BUN 上昇				
血液及びリンパ	貧血、ヘモグロビン減少、白血球数減少、赤血球数減少、白血球数増加、				
系障害	ヘマトクリット減少、鉄欠乏性貧血				
全身障害	疲労、無力症、けん怠感、末梢性浮腫、口渇				
筋骨格系障害	関節痛、筋痛、背部痛、筋痙攣				

その他

細菌感染、血清鉄減少、CK(CPK)增加、LDH增加、A1-P增加、血圧低下、起立性低血圧、高血圧、体重減少、転倒、呼吸困難

- 注2) このような場合には、体重減少等の原因となることがあるため、全身状態等に留意する こと。
- |注3) 本剤又は本剤の代謝物により尿が赤褐色に着色することがある。
- (4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度 該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

該当資料なし

9. 高齢者への投与

高齢者への投与

高齢者では一般に生理機能(腎機能、肝機能等)が低下しているので、患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。

10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- 1) 妊婦又は妊娠している可能性のある女性には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。また、生殖発生毒性試験において、ラットの1,000 mg/kg/日投与群で胎児の骨化遅延が認められている。]
- 2) 本剤投与中は授乳を避けさせること。[動物実験(ラット)で母乳中へ移行するとの報告がある。]
- 11. 小児等への投与

小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない。(使用経験がない)

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当しない

13. 過量投与

過量投与

徴候、症状:過量投与による急性症状としては錯乱、活動性低下、傾眠、皮膚変色、蕁麻疹等が報告されている。なお、過量投与例の最高1日投与量は16,000 mgであった。

処置:症状に応じた対症療法を行う。必要に応じて入院を指示し、総合的な支持療法を行う。

14. 適用上の注意

適用上の注意

薬剤交付時: PTP 包装の薬剤は PTP シートから取り出して服用するよう指導すること。[PTP シートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。]

15. その他の注意

その他の注意

- 1) 麦角系ドパミン作動薬 (ブロモクリプチン、ペルゴリド等)を併用した患者において、線 維性合併症が報告されている。
- 2) 本剤はレボドパ誘発性の起立性低血圧を増悪させるおそれがあるので、起立性低血圧を引き起こすおそれのある薬剤 (α 遮断剤、 α ・ β 遮断剤、交感神経末梢遮断剤等)を服用している場合には注意すること。
- 3) 他社が実施した国内臨床試験(8週投与)において、エンタカポン製剤はUPDRS (Unified Parkinson's Disease Rating Scale) Part I (精神機能、行動及び気分)、Part II (日常生活動作)、Part III (運動能力検査)の改善効果でプラセボ群との間に有意な差は認められなかった。

16. その他

該当しない

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

- (1) 薬効薬理試験該当資料なし
- (2) **副次的薬理試験** 該当資料なし
- (3) 安全性薬理試験 該当資料なし
- (4) その他の薬理試験 該当資料なし

2. 毒性試験

- (1) **単回投与毒性試験** 該当資料なし
- (2) **反復投与毒性試験** 該当資料なし
- (3) 生殖発生毒性試験 該当資料なし
- (4) その他の特殊毒性 該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製剤:処方箋医薬品注)

注)注意-医師等の処方箋により使用すること

有効成分:該当しない

2. 有効期間又は使用期限

使用期限:5年(外箱、ラベルに記載)

3. 貯法・保存条件

貯法:室温保存

4. 薬剤取扱い上の注意点

(1) 薬局での取り扱い上の留意点について

該当資料なし

(2) 薬剤交付時の取扱いについて

患者向け医薬品ガイド:有

くすりのしおり:有

その他の患者向け資材:有

Ⅷ. 14. 適用上の注意の項を参照

(3) 調剤時の留意点について

該当資料なし

5. 承認条件等

該当しない

6. 包装

包装形態	内容量(重量、容量又は個数等)
PTP 包装	100 錠、500 錠
バラ包装	300 錠

7. 容器の材質

包装形態		材質
DTD 匀壮	PTP	: ポリプロピレン、アルミ箔
PTP 包装	ピロー	: アルミ・ポリエチレンラミネート
バラ幻壮	瓶	: ポリエチレン
バラ包装	蓋(乾燥剤入り)	: ポリエチレン

8. 同一成分·同効薬

同一成分:コムタン錠 100mg

同効薬:該当しない

9. 国際誕生年月日

1998年9月16日(フィンランド)

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

製造販売承認年月日		承認番号	備考
	2016年2月15日	22800AMX00144000	

11. 薬価基準収載年月日

薬価基準収載年月日	備考
2016年 6月 17日	

12. **効能・効果追加、用法・用量変更追加等の年月日及びその内容** 該当しない

13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

14. 再審査期間

該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報

本剤は、投薬(あるいは投与)期間に関する制限は定められていない。

16. 各種コード

HOT 番号	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	レセプト電算コード
124784801	1169014F1064	622478401

17. 保険給付上の注意

本剤は診療報酬上の後発医薬品である。

X I. 文 献

1. 引用文献

1) 東和薬品株式会社 社内資料:加速試験

2) 東和薬品株式会社 社内資料:長期保存試験

3) 東和薬品株式会社 社内資料:無包装状態における安定性試験

4) 東和薬品株式会社 社内資料:溶出試験

5) 東和薬品株式会社 社内資料:生物学的同等性試験;溶出試験

6) 東和薬品株式会社 社内資料:生物学的同等性試験;血漿中未変化体濃度

7) 東和薬品株式会社 社内資料:粉砕後の安定性試験

8) 東和薬品株式会社 社内資料:崩壊・懸濁性及び経管投与チューブの通過性試験

2. その他の参考文献

該当資料なし

XⅡ.参考資料

1. 主な外国での発売状況

該当資料なし

2. 海外における臨床支援情報

XⅢ. 備 考

1. 調剤・服薬支援に際して臨床判断を行うにあたっての参考情報

本項の情報に関する注意:本項には承認を受けていない品質に関する情報が含まれる。試験 方法等が確立していない内容も含まれており、あくまでも記載されている試験方法で得られ た結果を事実として提示している。医療従事者が臨床適用を検討する上での参考情報であり、 加工等の可否を示すものではない。

掲載根拠: 「医療用医薬品の販売情報提供活動に関するガイドラインに関する Q&A について (その 3)」(令和元年 9 月 6 日付 厚生労働省医薬・生活衛生局監視指導・麻薬対策課事務連絡)

(1) 粉砕 7)

■ 試験製剤

エンタカポン錠 100mg「トーワ」

■ 方法

◇ 検体作製方法

試験製剤 30 錠をとり、乳鉢で粉砕する. (n=1)

(錠剤粉砕機への着色が懸念されたため、乳鉢で粉砕した検体を使用.)

◇ 保存条件

• 室内散光

条件:成り行き温度及び湿度,照度は $600\sim1000$ lx 付近に調整(3箇月後の時点で累計 120万 lx・hr以上),検体の層の厚さは3mm以下とする.

保存容器:開放したプラスチックシャーレをラップで覆う.

◇ 試験項目及び試験方法

・試験項目:外観,含量(残存率[粉砕直後の含量を100%として算出])

・試験方法:各検体の試験方法は医薬品製造販売承認書の製剤の規格及び試験方法に準じる. (n=3)

■ 結果

- 1						
	製品名	保存条件	試験項目	粉砕直後	1 箇月後	3 箇月後
	エンタカポン錠 100mg	室内散光	外観	帯橙黄白色 の粉末*	帯橙黄白色 の粉末*	帯橙黄白色 の粉末*
	「トーワ」		含量(%)	98.3	98.7	99.1
			(残存率(%))	(100.0)	(100.4)	(100.8)

^{*:}くすんだ黄赤色のフィルムの破片が混在

(注) 粉砕操作により着色(原薬由来)があるため、手袋着用、乳鉢の使用、念入りな水洗い等の対応が勧められる.

保存期間:2016年1月22日~2016年4月22日

温度:21.5~25.4℃ 湿度:11~52%RH

(2) 崩壊・懸濁性及び経管投与チューブの通過性 8)

■ 試験製剤

エンタカポン錠 100mg「トーワ」

■ 方法

- ①ディスペンサー(Exacta-Med オーラルディスペンサー)のピストン部を抜き取り、ディスペンサー内に製剤 1 個を入れてピストンを戻す。
- ②水浴を用いて 55 ± 1 ℃に設定したお湯をディスペンサーロから約 20mL 吸い取り、キャップ (Exacta-Med オーラルディスペンサーとセットで同封) で閉じ、ディスペンサーを横にした 状態で 5 分間放置する。
- ③ディスペンサーを手で90度15往復横転し、崩壊・懸濁の状況を観察する。
- ④崩壊していることが確認されれば⑥の手順へ進む。崩壊不良の場合は再度 5 分間放置し③の手順を行い、崩壊が確認されれば⑥の手順へ進む。さらに崩壊しない場合は放置時間を 60 分とした懸濁液を調製した上で崩壊・懸濁の状況を確認し、別途⑤の操作へ進む。
- ⑤錠剤はペンチで軽くつぶしたもの、カプセル剤は脱カプセルしたものについて①~③の作業を行う。崩壊不良の場合は再度 5 分間放置し③の手順を行う。この時点にて崩壊・懸濁しない場合、試験を中止する。
- ⑥ディスペンサーからキャップを取り外し、チューブ(予め挿入口から 2/3 を水平にし、ディスペンサー装着部を高さ 30cm の位置にセットしておく)に取りつけ、流速約 $2\sim3$ mL/秒で懸濁液を押しこむ。
- ⑦チューブを通過した懸濁液を回収し、室温まで冷ました後、pH を測定する。
- ⑧懸濁液をチューブ内に全て押し込んだ後、さらに水道水 20mL をディスペンサーで注入し、 洗いこむ。
- ⑨洗いこみ後のチューブ注入口、内部及び先端部について、詰まりや残留物の有無を目視にて 確認する。
- ⑩通過性にて通過抵抗を感じた、あるいはチューブ閉塞が起きた場合、チューブ径を 12Fr に変更し、懸濁液を調製後、\$~⑩の操作を行う。

31

■ 試験器具・機器

日本コヴィディエン(株) ニューエンテラルフィーディングチューブ (8 フレンチ長さ:

120cm)

Baxa 社製 Exacta-Med オーラルディスペンサー (透明) 60mL サイズ

Baxa 社製 経口用ストップコック付三方活栓

テルモ製 サフィードコネクター100

堀場製作所製 pHメーター LAQUA F-72

■ 結果

集11 口 夕	試験項目	結果		
製品名		水(約 55℃)	水(約 60℃)	
	崩壊性	5分で崩壊した		
	通過性	8Fr チューブ:抵抗なくチューブを通過する (全量を押し出せる)		
エンタカポン錠 100mg「トーワ」	残存	ディスペンサー及びチューブに わずかに認められる (目視で残留物が確認できるが 微量である)*	ディスペンサーにのみ わずかに認められる (目視で残留物が確認で きるが微量である)*	
	崩壊後 pH	рН 6.1	pH 5.5	

^{*:}水道水 20mL をディスペンサーで注入し洗いこむ操作を2回行ったところ、残存物を全て洗い流すことができた。

2. その他の関連資料

東和薬品株式会社 製品情報ホームページ

https://med.towayakuhin.co.jp/medical/product/index.php

32

製造販売元

東和薬品株式会社

大阪府門真市新橋町2番11号